

## 令和2年度 長崎県立口加高等学校 学校評価表

本校教育方針	新しい時代を逞しく切り開く知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図り、郷土や国際社会に貢献できる有為な若人の育成を目指す。
目指す生徒像	<p>(1) 自律の心で自分の意志や判断によって行動する生徒 【主体性】</p> <p>(2) 利他の心で公共のために他者と協力・活動する生徒 【協働性】</p> <p>(3) 寛容の心で他者の価値観を尊重し多様性を受容する生徒 【多様性】</p>
前年度の成果と課題	<p>(1) 全体的には適切な指導が行われ、一定の成果を上げている。</p> <p>(2) 職員研修の自己評価がやや低い。大学・短大・専門学校等への進学、福祉系・公務員を含む就職など、多様な進路志望を持つ生徒に対応できる指導体制の整備と共に、進路実現に必要な学力をつける授業力の向上に力を入れる必要がある。</p> <p>(3) 授業力向上のためのプロジェクトを企画・実行する。</p> <p>(4) 引き続き、広報活動と生徒募集に力を入れ、生徒数を確保する必要がある。</p>
努力目標	<p>(1) 信頼される学校の確立</p> <p>(2) 確かな学力の保証と進路の実現</p> <p>(3) 豊かな心の育成</p> <p>(4) 品性ある生徒の育成</p> <p>(5) 文化・体育活動の振興</p> <p>(6) 保健・環境美化の充実</p>

令和2年度 学校自己評価 総括表

分掌等	努力目標	具体的な方策	最終評価 (4段階)	成果と課題	次年度改善策
教務部	(1) 円滑な公務運営	①各学年や他分掌との意思疎通を図ることで連携を密にし、学校行事の円滑な企画・運営を行う。	3.2	行事予定確定・集約を促している週計画の導入	各担当から相談や報告をしてもらえ人間性を高めていく
	(2) 教育課程及び教務事務の適切な実行	①編成した教育課程が生徒の学力伸長や進路希望などの実態に即しているかを精査し、より実効的な教育課程の編成を行う。	3.3	教育課程の改良を進めた	特進GL・福祉が3年そろうのでさらなる見直しを進める
		②国家資格試験の受験資格を得られる教育課程を実施する公立高等学校として、適切な授業を行い、考査、成績算出、出席管理、諸票簿管理等を厳正に行う。	3.2	内規の改良を進めたチェック体制の見直しを進めた	見直したことの実行 観点別評価の体制周知 すいすいネットワークの適切な活用を構築し本格スタートさせる
	(3) 事務室と連携して、教育環境を整備する。		3.1	急なお願いをすることが多かった	部会で先のことまで検討する
	(4) 図書館運営の充実	①「稔りの時間」や情報誌を活用し、図書館の利用をより高めるための環境づくりに努める。	3.3	各教科の専門書購入を取り入れた	授業や探究で図書館を使う提案
(5) 図書館運営の充実	②図書委員会の活性化を図り、図書の整備・点検、及び興味・関心を抱きやすい図書の充実を図る。	3.5	新たに掲示板を作成した	図書委員会生徒の具体的活動の立案	
広報研修部	(1) 広報活動を活性化し、情報公開に努める。	①学校の最新情報をタイムリーに提供する。 (ア)「口加だより」および「口加通信」を定期的に発行する。	3.9	予定通り発行でき、内容の充実も図れた。	特になし。次年度も継続したい。
		(イ) WEBページの内容を概ね週一回更新する。	3.7	各行事ごとのタイムリーな更新ができた。	定期的に分掌等に更新を依頼する年間スケジュールの作成と、研修部以外の職員にもHP更新を行ってもらえる研修を実施したい。
		②モニターを利用し、登下校時、必要な情報を生徒・職員に提供する。また、対外的な行事の時、情報提供や案内を表示する。	3.1	モニターではなく掲示板を利用しての情報提供を行った。	モニターの利用方法に関しては、再検討が必要。
	(2) 生徒・職員研修の充実と推進を図り、生徒・職員の資質向上に努める。	③オープンスクール、学校説明会での校内外活動のアピールを行う。	3.2	コロナ禍により中止になったが、代替策としてDVDを作成・配布できた。	次年度も感染症の影響が懸念される中で、時期や内容を再検討する。
		①研究授業や公開授業、授業評価アンケートを通して授業改善に努め、教師間で自主的な授業力の向上を図る。	2.7	コロナの影響もあり、授業公開週間等が実施できなかった。	公開授業週間や職員研修などを体系的に実施する。特にICTに関する研修を実施する必要がある。
(2) 生徒・職員研修の充実と推進を図り、生徒・職員の資質向上に努める。	②人権・同和・平和教育、芸術鑑賞等のあり方を研究し実践する。	3.1	予定通りに実施できた。	次年度芸術鑑賞を実施予定。特に平和学習は「語り部」も減っており、内容の精選が必要。	
	③教育実習を事前に受け入れ、期間中は、各教科・学年と協力して対応する。	3.5	10月に延期となったが、該当教科とも連携し、十分な研修が実施できた。	2名受け入れ予定。該当教科・HR担当教諭以外にも多くの先生に関わってもらえるようにしたい。	
	④県教育センターや研究機関が主催する校外研修への積極的な参加を呼び掛け、研修後はその成果を教科会や分掌会等で共有する。	2.7	各種研修はその都度案内を行った。その後の共有においては不十分な部分もあった。	総合戦略会議・職員会議等の時間を利用しながら、職員が参加・受講した研修のフィードバックを積極的に実施する。	
	⑤学年・部活動・事務室と連携し、「青雲寮」の円滑な管理・運営に努める。	2.8	今年度は合宿等もできず、利用が少なかったことが課題である。	状況が改善すれば、積極的な利用の呼びかけを。利用規程についても再整備が必要。	

分掌等	努力目標	具体的な方策	最終評価 (4段階)	成果と課題	次年度改善策
広 報 研 修 部	(3) PTAと地域の連携を図る。	①PTA各種委員会の活性化とPTA研修の充実を図る。	3.5	コロナ禍で制約も多い中、工夫を凝らしてこれまでにない活動ができたのではないかとPTA役員・会員に感謝したい。	特に進路対策委員を中心とした進路研修会を次年度は実施したい。
		②地域行事等に積極的に参加し、PTAと地域の親睦を図る。	2.8	地域行事自体が中止になっているものが多く、なかなか参加ができなかった。	今年度参加できなかった活動(バレーボール大会や地域行事での巡視活動)への参加。
生 徒 育 成	(1) 社会に貢献できる人材を育成する。	①端正な容儀に努めさせる。	3.3	概ね実行できた。次年度も継続して行っていきたい。	
		②挨拶を励行し、時間を厳守させる。	3	概ね実行できた。次年度も継続して行っていきたい。	
		③ボランティア活動をはじめとする対外的な行事を通して、地域に根ざした社会集団の一員としての自覚を促す。	3.2	コロナ禍で通常通りに行うことが難しく、今後はその状況の中でもできる活動を模索したい。	
		④清掃活動を通して、徳の教育の充実を図る。	3.1	概ね実行できた。次年度も継続して行っていきたい。	
	(2) 生徒一人ひとりに帰属意識を持たせ、愛校心を涵養する。	①自主自律の精神に基づいた生徒会活動によって、生徒が主体となった行事の企画・立案ができるように促す。	3.2	生徒会や委員会が主体となり行事等を概ね問題なく遂行することができた。	
		②部活動を活性化し、心身の健全な育成に努める。	3.3	コロナ禍で通常の活動に制限がかかったが、頑張って活動できた。	
	(3) 問題行動を未然に防止する	①分掌・学年・保護者・地域・関係機関との連携を密にし、情報収集を行う。	3.4	問題等が発生した際には速やかに対処することができた。	SNS等に関する問題が発生することが考えられるので、次年度は指導を強化していきたい。
		②登校指導や巡視を円滑に実施する。	2.8	登校指導や校内巡視については、時間的問題があり、うまく取り組むことができない状況があった。	昼休みの校内巡視の取り組みの検討が必要である。
(4) 交通安全への意識を高める。	①交通関係の集会を実施する。	3.3	概ね実行できた。次年度も継続して行っていきたい。		
	②自転車盗難防止活動を継続する。	3.1	概ね実行できた。次年度も継続して行っていきたい。		
進 路 指 導 部	(1) 進路意識の向上	①学年・教科・部活動等と連携を取りながら、学習時間の確保を推進する。	3.2	make it note等を活用した。	来年度も継続していく。
		②学年集会・進路講演会等を通じて、生徒の夢ある進路目標の手助けをする。	3.2	6月に3年生・8月に1・2年生向けに進路講演会を実施した。	コロナで例年通りには行かないところもあったので、さらに検討が必要。
		③進路指導室・自習室・就職指導室を利用しやすい環境に整える。	2.8	過去の資料の廃棄を進めた。	もっと整理を進める。
		④時期に応じた適切な進路情報を提供し、保護者の進路意識の高揚を図る。	2.9	コロナの影響でPTAが実施できなかった。	情勢に合わせて保護者への発信を行う。
	(2) 進路指導体制の確立	①個々の進路希望に応じた進路指導体制を確立する。(国公立大学合格30人を目標とする)	2.8	3年補習では公務員クラスと短大・専門学校クラスを作った。	評価が低い理由が目標の達成度にあるなら、学校全体で学力の向上に一層努める必要がある。
		②補習・模試・学習合宿等を計画的に実施する。	3.2	学年と相談しながら実施することができた。	福祉科の補習・模試の受け方についてはさらに検討していく。

分掌等	努力目標	具体的な方策	最終評価 (4段階)	成果と課題	次年度改善策	
進路指導部	(2) 進路指導体制の確立	③各模試・実力テスト毎の結果分析を詳細に行い、学習指導・進路指導に活用する。	3.2	学力検討会・志望校検討会を実施した。	内容や時期、回数についてさらに検討していく。	
		④教員間の意思疎通を図り、充実した進路指導に繋げる。	3.2	学力検討会・志望校検討会を実施した。	内容や時期、回数についてさらに検討していく。	
	(3) 教員研修の充実	①中高連携、校外研修、大学入試研究を通して指導力向上の場を設ける。	2.6	進研協主催の九大入試問題研究会にはたくさんの先生に参加していただいた。	学力検討会や志望校検討会などを通じて研修を進めていきたい。	
		②AO入試や推薦入試等に応じた指導の研究と実践に努める。	3.1	3学年ではかなり進めることができた。	他学年にも広げていく必要がある。	
保健相談部	(1) いじめや不適応生徒の早期発見に努める。	③大学入試改革を見据え、アクティブラーニングやICT教育の推進と研修に力を入れる。	2.8	共通テストに帯する研究は進めることができた。	教務や研修部も含めて、各授業への還元が必要である。	
		④3年間を通じた進路指導体系を確立し、地域の中核校としての意識を高めさせる。	2.9	学力検討会・志望校検討会を実施した。	学力検討会や志望校検討会などを通じて研修を進めていきたい。	
		①相談部会を定期的に開催し、生徒情報を共有し、連携して早期に対応する。	3.2	・不登校傾向の生徒に対して、学年と連携し、教室復帰ができた生徒もいる。できるだけ登校を促し、相談室登校を経て教室復帰を目指す。	相談室登校期の対応方法を学年と連携する際の記録（日誌）の内容を再確認する。	
	(2) 特別な支援を要する生徒や多様な生徒に対し、組織的に対応ができるような体制を整備拡充する。	②「高校生活アンケート」を用いて生徒の変化をつかみ、学年（学級）経営と指導に役立てる。	3.6			
		③ロカロールームを有効に活用して、生徒の相談に対応できるようにする。	3.4	教室には入れない生徒が自分のペースで生活できる空間として有効。実際、一部屋に一人での使用となり、複数名出た場合、機能しなくなる。また、相談希望生徒との面談場所も不足する。	・いずれは相談室、ロカロールームのレイアウト変更を考えた方がいいと思う。・生徒の現状を該当学年と連携して調整する。	
		①健康面・学習面・生活面・対人面等において、配慮の必要な生徒に対する校内支援体制を確立する。また、必要に応じて保護者・外部専門機関との連携を図る。	3.3	・必要に応じてSCとつなぐことはできているが、生徒自身が本当に苦しくなる前の対応策が必要ではないか。	・SCの配置要請を今後も続ける。・「相談週間」等を設定して、保健相談部員による相談受付を広く行う等も検討する。	
	(3) 健康診断、各種心理検査を適切に実施し、結果に基づく事後指導を的確に行う。	②必要に応じ「チーム支援会議」で対応を協議し、担任をサポートする。	2.8	「チーム支援会議」と銘打っての活動はしていない。該当生徒について、関係者（担任・学年・教科・保健相談部・管理職）が連携し、担任のサポートを行っていた。	「チーム支援会議」の名称は使わない。学年保健相談部を連携の窓口とし、関係者の連携を図る方向を考える。	
		①眼科・歯科については、定期的を受診状況を確認し、悪化防止に努める。	3.5		眼科→視力に訂正。	
	(4) 組織的な広報の活性化に努める。	②心理検査結果について説明会を実施し、生徒理解に活用する。	2.7		コロナ禍のため、実施せず。夏休みまでには実施する方向で考える。項目から削除の方向で考える。（説明会は実施予定）	
		①「ほけんだより」「ロカロールームだより」を定期的に発行し、情報提供を積極的に行い、心身の安全意識を高め、健康管理の知識と実践力を確立させる。	3.4	「ほけんだより」は保健委員の活動の一環として発行されている。「ロカロールームだより」は、まずは学期に1回程度の発行から始める。	「ロカロールームだより」の担当を決め、発行計画を年度当初に決めておく。	
		②生徒保健委員会の活動を通して、健康づくりに対する意識の高揚を図る。	3.4			

分掌等	努力目標	具体的な方策	最終評価 (4段階)	成果と課題	次年度改善策
保健 相談部	(4) 組織的な広報の活性化に努める。	③奨学金の募集案内を的確に行い制度の周知をはかり、手続き等を迅速に行う。	3.5		
	(5) 安全管理に努め、衛生的な環境づくりを推進する。	①安全点検・環境衛生検査による管理を適切に行う。 ②防災計画・危機管理マニュアルを整備する。	3.5 3.5	事務室との連携(対応や時期など)の可視化が必要ではないか。	安全点検後に、事務室と連携するために確認する時間を持つ。 ③として「感染予防」の項目を付け加える。
事務部	(1) 関係規則・法令等に則り、適正な会計事務執行に努める。各人が知識の習得に努めるとともに、事務室内の相互チェックを強化する。	①関係規則・法令等の確認を行う。 ②書類の供覧を行う。	3.4 3.4	概ね実行できている。 概ね実行できているが、監査により昨年度の支出での指導を受けた。	規則・法令等をもっと手軽に検索できる環境づくりに努めたい。 誤記や計算ミスだけでなく、内容そのものについての可否についても確認するよう努めたい。
	(2) 安全・安心な学校生活を送ることができるよう、施設設備等の維持・管理及び整備に努める。	①校内の点検や安全衛生委員会の報告を基に施設設備等の維持・管理及び整備を行う。	3.3	早期の執行に努めているが、あまり追いついていないのが現状である。	確実な予算確保と迅速な事務処理に努めたい。
	(3) 節電・節水等に努め、地球環境の改善並びに経費の節減に努める。	①目標使用量を定め、使用量が多い場合は節減を呼びかける。	3.4	昨年度より11%減の節減を達成した反面、漏水被害により余分な支払いも発生した。	更なる呼びかけを行うとともになるべく早い修復に努める。
	(4) 給与・福利厚生等について、職員からの相談等に適切に対応できるよう努める。	①手当・福利厚生等について対象職員を把握し、必要書類の呼びかけや制度の説明を行う。	3.5	支給・払戻等に支障が出るようなことは特になかった。	今後もしっかりとした現状把握に努めたい。
	(5) 生徒・職員及び来校者が気軽に立ち寄ることができる事務室の雰囲気	①常にコミュニケーションを取り合い明るい雰囲気を作る。	3.5	大多数は問題ないが、時折入室をちゅうちょする生徒も見られた。	掲示を行うなど、話しやすい環境づくりを工夫したい。

令和2年度 学校評価アンケート結果【生徒】

4：そう思う 3：どちらかと言えばそう思う 2：どちらかと言えばそう思わない 1：そう思わない

質問項目	R02				平均	R01 平均	H30 平均
	4の割合(%)	3の割合(%)	2の割合(%)	1の割合(%)			
1 学校は校訓や学校・学級の目標を生徒にはつきり伝えてくれる。	26.0	53.5	18.6	1.6	<b>3.0</b>	<i>3.1</i>	<i>3.3</i>
2 学校には多様な進路希望を実現できる学科・コースやカリキュラム(教育課程)が整備されている。	53.1	39.9	6.2	0.8	<b>3.5</b>	<i>3.1</i>	<i>3.4</i>
3 学年集会や「総合的な探究の時間」など各学年の活動が充実している。	52.3	39.9	0.0	0.8	<b>3.4</b>	<i>3.2</i>	<i>3.4</i>
4 平和、人権・同和について学習する時間が設定されており、理解と意識を高めることができる。	48.4	43.8	6.2	1.6	<b>3.4</b>	<i>3.3</i>	<i>3.4</i>
5 政治や選挙について学習する時間が設定されており、社会参画の意識を高めることができる。	13.2	54.7	27.9	4.3	<b>2.8</b>	<i>2.7</i>	<i>2.8</i>
6 授業その他で環境問題について学習する時間が設定されており、取組も行われている。	16.3	44.2	35.3	4.3	<b>2.7</b>	<i>2.6</i>	<i>3.3</i>
7 交通安全や事故防止について考える時間が設定されており、指導も適切に行われている。	30.6	53.5	15.1	0.8	<b>3.1</b>	<i>3.3</i>	<i>3.3</i>
8 ボランティア活動について十分な情報提供と呼びかけがあり、多くの生徒が参加している。	38.4	43.8	16.3	1.6	<b>3.2</b>	<i>3.0</i>	<i>3.5</i>
9 いじめや悩みの調査が設定されており、対応も適切である。	41.1	47.7	9.3	1.9	<b>3.3</b>	<i>3.0</i>	<i>3.0</i>
10 文化祭や体育祭等の学校行事が充実している。	57.8	32.9	7.4	1.9	<b>3.5</b>	<i>3.3</i>	<i>3.6</i>
11 部活動は活発である。	56.2	35.7	7.0	1.2	<b>3.5</b>	<i>3.3</i>	<i>3.2</i>
12 図書室には読みたい本(見たいDVD)等があり、蔵書が充実している。	40.7	45.3	10.5	3.5	<b>3.2</b>	<i>3.0</i>	<i>3.0</i>
13 学校は施設の安全・美化が行き届き、環境衛生が保たれている。	17.4	55.4	21.7	5.4	<b>2.8</b>	<i>2.9</i>	<i>3.4</i>
14 先生は進路目標の確立とその実現のために、きめ細やかな指導をしてくれる。	45.0	44.6	9.7	0.8	<b>3.3</b>	<i>3.2</i>	<i>3.3</i>
15 先生は生徒の学力を向上させるために、授業の工夫や充実に取り組んでいる。	45.7	45.7	7.4	1.2	<b>3.4</b>	<i>3.3</i>	<i>3.6</i>
16 先生は生徒のことを理解しようと努め、正すべき点は指摘して適切に指導してくれる。	48.1	42.2	8.5	1.2	<b>3.4</b>	<i>3.2</i>	<i>3.4</i>
17 先生は学習・進路・体調等の相談に親身になって対応してくれる。	57.4	34.9	6.6	1.2	<b>3.5</b>	<i>3.0</i>	<i>3.3</i>

※今年度は項目の見直しを実施した。R1, H30は内容が比較的近いものの数値を掲載。

令和2年度 学校評価アンケート結果【保護者】

4：そう思う 3：どちらかと言えばそう思う 2：どちらかと言えばそう思わない 1：そう思わない

質問項目	R02				平均	R01 平均	H30 平均
	4の割合(%)	3の割合(%)	2の割合(%)	1の割合(%)			
1 学校の学科・コース・教育課程(カリキュラム)は、子どもの進路希望を実現するものになっている。	37.8	50.4	8.3	2.2	<b>3.3</b>	<i>3.2</i>	<i>3.3</i>
2 学校は子どもの進路目標の確立と実現のために必要な情報を提供して適切な進路指導を行っている。	38.3	48.7	9.1	3.5	<b>3.2</b>	<i>3.2</i>	<i>3.3</i>
3 学校は積極的に保護者や地域に広報・情報発信をしている。	34.8	51.7	0.0	2.6	<b>3.2</b>	<i>3.4</i>	<i>3.4</i>
4 学校は家庭・地域社会と連携・協働した教育活動に力を入れている。	25.7	61.3	10.9	1.7	<b>3.1</b>	<i>3.3</i>	<i>3.4</i>
5 学校は平和教育や、いじめ根絶も含めた人権・同和教育に熱心に取り組んでいる。	24.3	61.3	11.3	0.9	<b>3.1</b>	<i>3.2</i>	<i>3.3</i>
6 学校は交通安全意識を育てるための指導を計画的・組織的に実施している。	20.4	60.4	16.5	0.9	<b>3.0</b>	<i>3.1</i>	<i>3.3</i>
7 学校施設の美化、安全管理、衛生管理は十分になされている。	31.7	55.7	8.7	2.2	<b>3.2</b>	-	-
8 子どもの学校生活は、基本的な生活習慣が守られ、規律あるものになっている。	38.7	52.2	4.8	3.0	<b>3.3</b>	<i>3.4</i>	<i>3.4</i>
9 文化祭や体育祭などの学校行事が活発で、子どもたちは生き生きとしている。	40.4	47.4	8.3	3.0	<b>3.3</b>	<i>3.5</i>	<i>3.6</i>
10 部活動は全体的に活発で、子どもは積極的に参加している。	53.9	36.5	6.5	3.0	<b>3.4</b>	<i>3.3</i>	<i>3.6</i>
11 子どもはボランティア活動に積極的に取り組んでいる。	26.1	43.9	25.7	3.0	<b>2.9</b>	<i>3.1</i>	<i>3.2</i>
12 職員は子どもをよく理解し、真剣に対応してくれる。	39.6	46.1	9.6	3.5	<b>3.2</b>	<i>3.3</i>	<i>3.4</i>
13 子どもの学習や進路について、保護者は職員に相談しやすく、対応も適切である。	42.2	45.2	9.1	2.6	<b>3.3</b>	<i>3.3</i>	<i>3.3</i>
14 子どもの体調や悩みなどについて、保護者は職員に相談しやすく、対応も適切である。	41.3	46.5	8.7	2.6	<b>3.3</b>	<i>3.1</i>	<i>3.3</i>
15 子どもの学校での様子や事故・病気等について、職員は家庭への連絡を適切に行っている。	44.3	43.9	8.3	3.5	<b>3.3</b>	<i>3.3</i>	<i>3.4</i>
16 訪問時や電話での職員の対応は丁寧かつ適切である。	56.1	36.1	4.3	2.2	<b>3.5</b>	<i>3.6</i>	<i>3.6</i>
17 事務室は諸納金や証明書等について適切に対応している。	51.7	40.9	5.2	1.7	<b>3.4</b>	<i>3.4</i>	<i>3.5</i>

※今年度は項目の見直しを実施した。R1, H30は内容が比較的近いものの数値を掲載。

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1) 生徒・保護者の評価 ○生徒によるアンケート結果は17項目中14項目、保護者によるアンケート結果は17項目中3項目で昨年度より評価が高くなった。保護者によるアンケート結果については、新型コロナウイルス感染症防止のために行事を縮小・削減したため、保護者が来校して学校や生徒の様子を直接目にする場面が少なくなったことも影響していると思われる。 ○主権者教育、環境教育については毎年低い評価となっている。 ○施設の安全・美化についても評価が低い、施設の古さが評価に影響している。また、生徒数減に伴い校内の清掃も行き届かない場所がある。</p> <p>(2) 職員の自己評価 ○授業力向上などについて職員研修の充実が必要である。年度当初から今年度の課題としていたが、臨時休業時の学習の保障と、一人一台端末の導入に対応するため、遠隔授業を含むICTの活用に研修の方向を変更せざるを得なかった。 ○多様な進路希望に対応できる科・コース・クラスの設置を進めてきた。それぞれの特徴を活かしながら計画的な進路指導体制を確立する必要がある。</p>
<p>来年度の改善策</p>	<p>(1) 次年度も、感染症対策には細心の注意を払いつつ教育活動を維持できるよう努力する。 (2) 主権者教育・環境教育については、限られた時間の中で成果を上げることができるよう指導の内容を見直す。 (3) 施設・設備については県に必要な改修を要望する。清掃活動については、日頃から清掃する場所を定期的にローテーションして美化に取り組むなどの工夫を行う。 (4) 研究授業や校外の研修への参加を促し、授業力向上を目指す。ICTの活用については引き続きプロジェクトチームを中心に研究と研修を進める。 (5) 次年度は特進クラスとしてのグローバルコースと福祉科が3学年そろい、普通科普通コース(名称変更予定)、生活創造コースも含めて新たなスタートを切る。各科・コースの特色に応じた授業計画、補習や模擬試験の実施計画、就職・公務員の指導計画、福祉科の国家試験取得指導計画を、3年間を見通して策定する。</p>